

# 第1学年 算数科学習指導案

場所 教室

- 1 単元 大きいかず (本時8 / 13)
- 2 本時の目標  
100までの数の大小を考え、数の順番を理解し、数を並べることができる。(知識技能)
- 3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 数の大きい方を選ぶ。 ・右の方が大きい。 ・十の位を最初に見ればいいよ。	・数の大きい方を選ぶように、十の位が異なる数字を2つ提示する。 ・どうして分かるのか説明できている児童を称賛する。
課題 (2)	2 本時の学習課題を把握する。	
展開 (33)	<p style="text-align: center;">どうすればじゅんばんにならべられるかな。</p> 3 数の大きい順に並べる。 ・さっき、十の位を見ればいいと言っていたから、十の位を比べてみよう。 ・100と96だったら、十の位で比べられないけど、どっちが大きいのかな。 ・表を見たら100が最後に載っているから、100の方が大きいんじゃないかな。 ・79と74だったら、十の位は7だから、9と4を比べればいいね。 ・5と4だったら、5の方が大きいから、50と40だと50の方が大きいよ。 ・並べ方が僕と違う気がするよ。 ・一の位を見たら、違うことが分かるんじゃないかな。 ・十の位が6で同じだけど、隣の位を見たら9と8で全然違うよ。 ・数字は3つあるけど、2つずつ見ていくと並べやすいよ。  4 教科書P105の7, 8番の問題を解く。 ・7番の①は、1つずつ数字が増えているから、□には順番に数えていけば分かるよ。 ・7番の③は、最初2つ□だから分かりにくいね。 ・70, 80, 90というところを見たら、10ずつ増えているよ。だから、50と70の間は60じゃないかな。 ・22と26の間が分からないけど、2ずつ増えているから、数の表見たらわかるかもしれない。 5 本時の振り返りをする。	・それぞれ数の違う数カードを一人3枚ずつ配付する。 ・「数の大きい順番になるように並べてください。」と主発問をする。 ・個⇒チームという流れになるように、チーム内でも全く違う数字のカードを渡す。 ・ <u>なぜその順番に並べられたのか理解できるように、「どうしてその順番に並べたの。」と補助発問をする。</u> ・順番が分からず困っている児童には、十の位に注目できるようカードを2枚に意図的に減らしたり、十の位と一の位に着目できるように色で囲ったりする。 ・並べ方に困っている児童には、上から下、左から右の並べ方の選択肢を与え、「大」と書かれたカードを置く。 ・ <u>順番が間違っている児童には、同じチームの児童に、「この並べ方どうかな。」と話し合いができる問いかけをする。</u> ・ <u>全員が並べ終わっているチームには、それぞれが持っている数字のカードを使って、大きい順に並べるよう追加課題を与える。</u>  ・順番が分からない児童には、P36, 37の数の線を配付し、数の順の規則性を説明する。 ・困っている児童が聞きやすいように、問題を解くことができた児童は赤帽子を被るよう指示する。 ・全員赤帽子になったチームから答えの確認をするよう促す。 ・ <u>答えが違うことで困っているチームには、自分たちで問題解決ができるよう、それぞれの答えにたどり着いた理由を話すことを伝える。</u>  ・本時の目標に沿った振り返りが書けている児童を意図的指名する。
整理 (5)	大きいじゅんか小さいじゅんにならべるときは、十のくらいからみると、できることがわかったよ。	

## 4 評価

十の位と一の位の数の大小に着目し、数カードを順番に並べることができたか。

(活動3の発言、4、5の記述から)